

第2回子ども・子育て会議でいただいた意見の対応状況

No	委員意見	対応状況
1	「大変順調」「順調」「やや遅れ」「遅れ」の表現は変えられないか。	適切な代替案があれば、検討したいと考えていたが、代替案がなかったため、このまま進めさせていただく。
2	数値的な「遅れ」だけでは、事業の真意が伝わらない。留意点にもう少しわかりやすい表現が加えられないか。	留意点に項目を追加 (資料1を参照)
3	活動指標を事業とあわせる必要があるのではないか。	活動指標・成果指標は、プラン策定の過程において、子ども・子育て会議の了承を得て決定させていただいた。 基本的には、これらの指標を基に計画期間である5年間、同じ指標で評価を行うものとしている。 今年度は、プランのスタートの年であり、点検・評価の着手までによりふさわしいものがあれば、追加することも可能である。
4	成果指標を市民感覚に合わせる必要があるのではないか。	
5	事業の目的をはっきりさせて、その達成のためにこの目標があることを明確にしたほうが良いのではないか。	点検・評価票作成時に、目的も含めた事業概要を記入する。
6	5年間毎年評価が要る事業と整備事業等評価が必要でない事業で分けてはどうか。	整備事業等の進捗管理も必要であることから、評価の必要性の可否の判断が困難である。
7	誰のための評価で、それが市民のためでもあるのであれば、もっと市民に分かりやすくする工夫が必要ではないか。	評価の目的とアンケート調査の必要性について資料7により説明。
8	大規模なアンケートだけで本当に市民の声が拾い上げられるのか疑問である。定点観測的なものを加えることができないか。	これまで、住基による無作為抽出で行ってきたアンケートに幼稚園、保育所の施設を介したアンケートを行う。(基礎的調査) また、基礎的調査に加え、補足的調査として親子ふれあいルームを介した就学前児童保護者の意見(ヒアリング調査)や、放課後児童クラブを介した小学生の意見(アンケート調査)、未就学児の代弁者である保育士および幼稚園教諭の意見を聞き、施策の評価に反映したいと考えている。
9	親子ふれあいルーム等に来ているお母さんに対して、アンケート調査をしてはどうか。	
10	子どもの視点をどこかに取り込めないか。	
11	放課後児童クラブなどを通じて、子どもの満足度もはかったほうが良い。	